

研究課題名	【Web 会議番号 2020_09】 複数の重症食物アレルギーを有する児に対する同時緩徐微量経口免疫療法 Simultaneously slow low dose oral immunotherapy: double-S LOIT (wSLOIT)
フリガナ	スギウラ シロウ
代表者名	杉浦 至郎
所属機関（機関名） （役職名）	あいち小児保健医療総合センター アレルギー科医長 兼 保健室長
本助成金による発表論文，学会発表	なし

研究結果要約

我々はこれまでに 1 種類の抗原を対象とした緩徐微量経口免疫療法 (slow low dose oral immunotherapy: SLOIT) の高い安全性と十分な効果を報告している (Allergology International 2020)。今回は複数の重症食物アレルギーを有する児を対象に複数抗原同時 SLOIT の効果と安全性を評価する臨床研究を行った。

本研究の対象はそれぞれの食物経口負荷試験 (OFC) により鶏卵・牛乳・小麦のうち 2 つ以上に対して重症アレルギーを有すると診断された児であり、2020 年 8 月から 2021 年 7 月の間に 9 人が参加した。対象者の原因抗原の内訳は鶏卵 8 人、牛乳 7 人、小麦 3 人（全て延べ数）であり、OFC での総摂取量（茹で卵白、牛乳、茹でうどん）は 1.5g[or mL] (interquartile range: 0.7-1.7) であった。

院内調整抗原ミックス粉（一定量の鶏卵、牛乳、小麦を含む）を用いた米粉クッキーの作成は全ての保護者が可能であった。病院でのクッキー初回摂取における症状誘発は認められず、自宅では延べ 1132 回（摂取予定の 96.0%）の摂取が行われ、症状誘発は 5 回 (0.44%)、薬物を必要とする症状誘発は 2 回 (0.18%) 認められた。1 例が症状誘発後（咳と蕁麻疹）の本人の摂取拒否により治療を中断したが、誘発された全て症状は自宅で改善し、病院受診やアドレナリン自己注射器の使用は認められなかった。現在のところ研究実施、安全性に大きな問題は認められないと判断しており、治療群 20 症例を目標にエントリーを継続、治療開始から 1 年経過後の採血と OFC により、免疫学的な変化（特異的 IgE、IgG4）及び症状の改善を評価、単抗原 SLOIT との比較を行う予定である。